



星野 朝子
日産自動車
専務執行役員

経済同友会 つながる▶▶

リレートーク #208

に りつはいはん 二律背反? メビウス? ～未来は「今」創られる～



長嶋 由紀子
リクルートスタッフィング
取締役社長

「強くなければ生きていけない、優しくなければ生きていく資格がない」。ハードボイルド小説の主人公である私立探偵フィリップ・マーロウの台詞に心震えた高校時代、手帳に書き写した台詞は、日々を支える言葉となった。当時の私の「強く」とは、所属するテニス部が勝ち続けること。勝つために厳しい先輩風も吹かせたが、時に「優しく」なければ後輩はついてこない。17歳の頭の中は、部活繁栄のスローガンとして、珠玉のハードボイルド・フレーズでいっぱいだった。

社会人になって程なく、マーロウの台詞と同様に、心底、合点がいく言葉「ロマンとソロバン」に出会った。ロマン～理想の未来を志し、ソロバン～しっかりキャッシュを稼ぐ。幾つも歳の変わらない先輩に、「ロマンだけじゃ食えないぞ、ソロバンだけじゃ社会の公器の資格はない。両立してこそ事業」と諭されたのだ。マーロウの台詞が記憶によみがえっただけではなく、その先輩が老師にすら見えた。「ロマンとソロバン」は、その日から私の仕事人としての礎となり、簡単には同期しない、時に二律背反の概念に、今も日々、汗をかいている。

ロマンに関するテーマでは、最近、NPOを志向する人々と会う機会が増えた。彼らは社会起業家として、グラミン銀行のムハマド・ユヌス氏を範とし、「事業の成功はキャッシュではなく、社会を変えることにある」と言う。貧困層に無担保ファイナンスが誕生したのは革命的な社会変化であり、重ねてグラミン銀行の金利は20%。チャリティではなく、しっかりビジネスである。

ピケティ本も大流行した。CSRではなくCSV (Creating Shared Value) を掲げ、社会課題の解決で勝負する既存企業も増えてきた。また、小資本で大事が成せるIT革命を背景に、マーケット全体が社会起業家的な思考で変化のスピードを上げている…。ふと思う。古来、近江商人の三方満足に始まり、渋沢栄一翁のように「利益追求と社会貢献の融合こそ企業人の本懐」と説くリーダーが経済界のお手本だった日本にこそ、次なる資本主義の最先端を走ることのできる要素が整っているのではないか。

未来を思う「ロマンとソロバン」。これを二律背反ではなく、メビウスとして感じるからこそ、その第一歩だと思う。「強くて優しい」ことを理想とした甘酸っぱい記憶とともに、過去があるから今がある。未来は今の延長線上にしか存在しない… Just do it!!

▶▶ 次回リレートーク

津坂 美樹

ポストンコンサルティンググループ
シニア・パートナー&マネージング・ディレクター